



脳卒中の予兆

症状があればすぐに受診を

脳卒中とは、頭の中の血管が詰まったり、破れたりすることで脳に障害が起こる病気です。脳は手足を動かしたり、話をしたり、物を見たり、物を考えるなどたくさん機能があり、大切な場所です。また脳は右と左に分かれていて、手足を動かすための信号が送られる神経という電線のようなものは、途中で右から左と反対の方に交差してつながっています。したがって、例えば左側の脳に行く血管が詰まると、反対側の右の手足が動かなくなりません。また多くの人は左の脳に言葉を話したり聞いたりする機能がありますので、脳の左に障害が起こると、しゃべれなくなったり、聞いている言葉が理解できなくなったりします。脳卒中の症状は脳の一部が傷ついて起こるので、障害が起こった場所の持つ機能に応じて、片側

の手足が動かなくなったり、しびれたり、しゃべれなくなったり、ろれつが回らなくなったり、ふらふらして歩けなくなったり、見ている物が半分しか見えなくなったりします。しかもこれまでどうもなかったのに、急にこのような症状が出てきます。最初は軽い症状でも様子を見ているうちにだんだん悪くなってしまってもありますし、治療を始めるのは早ければ早いほど効果がありますので、脳卒中かなと思ったらすぐに救急隊に連絡してください。また数分間ぐらいで症状がなくなってしまうこともあります。こういう場合も本物の脳卒中の前ぶれであることがありますので、すぐに病院を受診してください。

吹田市医師会

長束 ながつむ

一行 かずゆき